

タイトル名：GIS等を活用した有害鳥獣被害対策

対象地区名：対馬市全域

1. 対象地区の概要

韓国との国境に位置する離島である対馬の面積は708.84km²で、全国で3番目に広い島であり、90%が山林で1.5%が農地である。かつて、対馬は江戸時代に陶山訥庵（すやまとつあん）によりイノシシが根絶され、近年まで生息を確認していなかったが、H6年頃から確認されるようになり、H23年度には10,648頭が捕獲されている。また、対馬のシカの捕獲頭数も増加し、H25年度には3,941頭が捕獲されている。対馬の農業生産額は8.6億円（H18年度）で、ピーク時には34,194千円（H24年度）が、イノシシにより被害額を受けている。これまでに、防護対策としてWM柵などの防護柵の設置は約900kmにも及んでいるが、防護柵の管理や効果的な柵の設置が課題である。また、捕獲対策として、有害捕獲従事者は銃・わな併せて247人を確保しているが、農作物被害発生箇所周辺などへ罠の効果的な設置がなされていないことが課題である。さらに、捕獲頭数が多いことから処分方法にも問題があり、今後、有害鳥獣を資源としての利活用も必要である。

そこで、対馬市を中心に獣害に強い地域づくりを目的に、「平成の訥庵」事業と称して、農業者・狩猟者・行政だけの対策からより多くの地域住民を巻き込んだ対策となるための意識改革を進めている。

2. 具体的な取り組み

- 1) 防護・環境整備：防護柵現況情報収集、GISを使った防護柵設置指導システムの構築、被害相談会等による防護柵設置・環境整備等集落対策指導。
- 2) 捕獲：GPS機能付きカメラを使った、捕獲わなのGIS設置位置登録および現地確認・捕獲データ蓄積システムの構築。
- 3) イノシシ・シカ資源利活用：食肉衛生管理ガイドラインの作成、生ハム・ソーセージ等食肉やレザークラフトへの利活用。
- 4) 推進体制：(市)システムの構築、被害相談会の開催、補助事業等の窓口、(振興局)総合的な助言・指導、(集落)集落における被害防止対策実践、(猟友会)ワナ等による捕獲。

3. 活動の経過と成果

- 1) 防護・環境整備：中山間で農地が分散している対馬では、集落内の被害対策について把握している住民は少ない。構築したGISの地図情報は集落点検マップとして使用でき、防護柵の設置状況、わなの設置状況と捕獲情報も一括して閲覧できる。対馬市13箇所ではGISを使った被害相談会を実施し、集落内の防護柵設置状況、わな設置および捕獲情報を説明した上で、個人及びグループに対して補助事業を活用した防護柵の設置、および、イノシシ・シカのエサとなる作物残渣の除去を指導するなど、集落で取り組む被害対策意識を高めることができた。併せて、より実情にあった被害状況の把握も可能となった。
- 2) 捕獲：GPSによる設置わなの位置情報により、GISで捕獲位置情報が確認できることから、捕獲

した際、電話連絡により市の確認員が駆けつけて現場確認できるようになった。確認員は捕獲に関する詳細なデータの記録及び止めさしを行い、その場で解体基準の審査を実施し、基準を満たす個体は衛生管理下で解体処理、満たさない場合は埋却処理を行う。このシステムの導入により、狩猟者からの写真・しっぽ・耳等の提出が不要になり、不正行為も防止できる。また、正確な捕獲データ収集が可能となったことから、被害に応じた計画的な捕獲体制、被害対策を検討できるようになる。

3) 獣資源利活用：既存の食肉解体処理施設を、食肉加工処理機能を併せ持つ施設に改修。捕獲の際、解体基準を満たした個体は施設に持ち帰り、衛生的に処理・加工した試験販売及び市場調査が行える商品（生ソーセージ等）を製造中。併せて対馬市における食肉の衛生管理ガイドラインを大阪府立大と連携して作成中。レザークラフトは、市民の手仕事として産業化も視野に、市民に対するレザークラフト講座を開始した。

4. 今後の展開

- 1) GISを使った被害相談会は、各旧町2箇所程度の広範囲エリアでの実施であり、今後は集落単位での対策指導等にも使っていく必要がある。
- 2) 集落単位での対策指導を行うことで防護柵管理等、環境整備のため意識向上を図る。
- 3) 被害状況と最適な捕獲方法を組み合わせた効果的対策を図る。
- 4) 生ソーセージ等食肉加工品やレザークラフト製品を商品化し、新産業を創出する。



現場確認



GIS 情報



GIS を活用した被害相談会



獣資源利活用